

第59回シグマ委員会熱化グループ会合議事録

日 時 昭和43年6月21日(金) 午後1時～6時30分

場 所 原研本部第3会議室

出席者 大竹, 角谷(山室氏代理), 関谷, 菅原, 飯島, 綾尾, 坂本, 中原, (嶋田) 以上9名

配布資料

- 1 第58回シグマ委員会熱化グループ会合議事録
- 2 減速材の熱中性子散乱データの compilation (飯泉)
- 3 THRUSHコード 角谷
- 4 分子による中性子の微分断面積 関谷

議 長 角 谷 浩 亨

議 事

1 前回議事録確認

P 1 上から12行目 飯島 仁 飯泉 仁
P 3 下から6行目 飯 島氏 飯 泉氏

2 一般報告

飯島氏より大要次のような報告があった。菅原氏が新らしく委員になることは先の運営委員会で承認された。錦織氏が委員になることは手続きに手間取っておくれていたが、やはり運営委員会で承認された。INDCで data request をまた作成することになり、国内の分は9月20日までにIAEAに届くようにまとめる。依頼状がそのうち郵送されると思うが、去年作成したものをコピーして配布するので、参考にして記入して欲しい。核データ研究室が原研にでき、百田部長が室長を兼任され、専属研究員は今のところ五十嵐氏のみである。

更に飯島氏よりシグマ委員会と核データ研究室との関連についての説明があった。また中島(竜)氏が今度帰国され、SCISRSというコードを持ち帰った、それにはU以上の核種についての生のデータが入っている、原研でコピー・テープを作成するので、百田主査宛に依頼状を出せば借りられると思う。ENDF/Bテープもこわれていたが今週中位には直るそうである。テープの貸し出し手続きの書式を近々作るとのことである。等の説明が飯島氏よりあった。

3 文献調査

データ・リスト作成案の説明が飯泉氏に代って坂本氏よりあった(資料2)、討論の過程で次のような発言があり承認された。

物質の種類項目に「その他」を設けた方が良い

phenyl の項目を organic とし、ポリエチレン等も含めた方が良い。

密接に関連した文献、例えば分散関係が測定されているとが、振動数分布で evaluate されたものがあるとかを付記しておいた方が良い。

momentum transfer の範囲を α で与えたのでは、温度が変わった時などはつきりしないので、 K で与えた方が良い。

分子の場合 H についてのものか分子についてのものか明記する。

データの発表年度を明記する。

$\sigma_s(E)$ の温度変化を入れた方が良い。

更に次の事が決められた。

グラフ、表等を転載する場合の著作権にからむ問題については原研の資料情報課に問合せしてみる。

記入用紙の書式をきめて印刷し配布する。

データ・シートのコピーをとり、配布する。

原稿作成者の割り振りが行なわれ、次のように決った。

H ₂ O	大竹, 飯島 (total のみ)
	飯泉
D ₂ O	角谷, 芳賀
Be	菅原

BeO	飯島
graphite	中原
organic	関谷，綾尾
ZrH	坂本
その他	錦織

坂本氏より，JAERI-4043作成後集ったデータ・シートを今整理している，脱落している文献のチェックをまたやりたいとの発言があった。

資料情報 vol. 11, №15~№23

CONTENTS vol. 4, №15~№23

から調査すべき文献がリスト・アップされ，記入者の割り当てが行われた。

4 コペンハーゲン会議報告

去る5月下旬コペンハーゲンで開かれたIAEA主催の中性子非弾性散乱についてのシンポジウムに出席された坂本氏より，会議の様様についての総括的な報告があった。

5 Evaluationの成果報告書作成について

先に書面で連絡してある成果報告書作成方針について大竹氏より説明があった。更に英文で出すという点について飯島氏より補足説明があった。

6 今年度実行計画

(1) THRUSHコード(資料3)

角谷氏よりTHRUSHコードの計算式についての報告があった。

(2) 関谷氏より振動モードをくりこんで散乱断面積を計算する方法についての報告があった(資料4)

(3) 飯島氏よりBeOの振動数分布を計算するコードの構成についての報告があった。固有振動数，固有ベクトルを計算するところまではプログラムが出来ており，振動数分布を計算するにはFREDAMを用いるとのことであった。

7 その他

データ・リスト作成のためのワーキング・グループ会合をそのうち持つことが確認された。日時は未定。

次回予定

日 時 昭和43年8月23日(金) 午後1時～
場 所 原研東海所
議 長 綾 尾 慎 治